

流山稲門会

【交譲葉】俳句の会 報告

令和六年六月句会(第一四五回)

兼題 「半夏生」

開催日 令和六年六月二十二日

開催場所 生涯学習センター

出席者 六名

投句者・選句者 七名

(七点句)

●次々と生まれる雲や半夏生

互酬

選評：兼題季語の”半夏生”には時候と植物そのものの意味があるが、私は後者、つまり植物の半夏生と”や”で切れる上五中七との取り合わせの句として鑑賞したい。半夏生の葉の上部の白と白い雲、生”という字の何気ない関連性、大景と小景のコントラストが素晴らしいと思う。(玄鳥記)

(六点句)

●夏の蝶ふわり現れふわり去る

寿歩

選評：わが家の庭にも春先には蝶が飛び交い一匹一匹気にかけることはありません。しかし夏になると数も少なくなるせいか気がつくと目で追って行くこともしばしばです。作者もそうなのででしょうか。ふわりふわりと重ねての表現に優しい視線が見て取れました。

(小牧記)

(四点句)

●青嵐首を折られし葱坊主

夢心

選評：青嵐の激しさを、目にした光景を淡々と詠むことで伝えているところに魅かれました。さらに、”首を折られた坊主”に俳句ではめったに味わえない怖いという感情を抱き、ドキッとしました。この夏の異常気象への予感でしょうか。また、私は「葱坊主」を単なる物として捉えたので気になりませんでした。青嵐」と「葱坊主」、一句に別の季節の季語が用いられていることは是非を問う声もありました。(寿歩記)

(三点句)

身ごもりて目に留まりたり半夏生

寿歩

木々抜ける風の潤い梅雨さざし
ゴーヤ伸ぶ床屋の鉢軽やかに
樟脳の医院出づれば紅の薔薇

寿歩
玄鳥
玄鳥

(二点句)

二度三度会う日合わせて花菖蒲
子雀や旧家の屋根に行儀よく

小牧
艸寛

(一点句)

これなーに半夏生草と媪たち
あやめ咲く白無垢花嫁舟ゆられ

徹心
互酬

(投句)

二の腕の傷あとあらは半夏生
雨を忌み豊作祈る半夏生
庭の隅隠れ潜むは半夏生
作品展芸能大会半夏生
半夏生クレーン三基暑苦し
郭公の時計鳴るなり朝御飯
世話役減り紫陽花通り名ばかりに
色形紫陽花花の百面相
迸る四葩輝き遊ぶ雨
半夏生ちよつと怖い名ねと妻が言い
洗い髪香残すは母か妻
唐黍の芽の上上がる黒マルチ
あじさいの額と花びら色合わせ
エーアイだ

玄鳥
小牧
艸寛
夢心
徹心
玄鳥
小牧
夢心
互酬
徹心
夢心
夢心
寿歩
徹心

ジューピーティで初夏迎え
虹色は赤橙黄緑(あかだいきりよく)

徹心

青藍紫(あおあいし)
ふるさとのびわをふるさと納税に
父と吾各々涙す母の日や

互酬
小牧
艸寛

『句会後記』

今回は作者以外の六名の会員のうち、五名の会員が揃って選句した作品が二つもありました。評価が分散することが多い中で、これだけ集中するのは珍しいことだと思いました。

句会では一句ずつ順に取り上げて、作者の意図や会員の感想などの意見交換が活発に行われました。その中で、作者自身の発想や、会員からの意見を入れての作品の改訂の申し出があったりします。作者の中では、句会の後でも更に推敲を重ねて、最終決定版は句集に掲載されるところまで続くのでしょうか。(夢心記)